

修学旅行に向けての平和学習3

3年生 被ばく体験伝承講話 6月23日(火)

現3年生は、今年9月に予定している修学旅行で「広島」を訪問することから、「平和学習」に取り組んでいます。今回はその第三弾として、6月23日(火)に「被爆体験伝承講話」を実施しました。



被爆体験伝承講話

1. 広島市と原子爆弾の被害について
くにしげ まさひろ
2. 被爆者、國重 昌弘さん(当時14歳)の体験
 - (1)戦争中の生活
 - (2)原爆が投下される前日、1945年8月5日
 - (3)1945年8月6日と、その後
 - (4)被爆体験の証言者になる
3. まとめ・被爆体験伝承者としての思い

この講話の講師招へいについても、「平和学習モニター校」の制度を活用させていただき、被爆体験伝承者の濱田 千恵さんにおいでいただきました。濱田さんは、被爆者である國重昌弘さんの原爆投下当日の体験証言を中心に、当時の広島市の様子や伝承者としての活動などについて、お話をしていただきました。

当日、爆心地近くで被爆され、火傷を負いながらも徒歩で帰宅を試みるなかで見た被災の惨状、帰宅後に行った自宅での壮絶な痛みを伴う治療など、國重さんの実体験による証言を、感情を抑えながらも力強く語る濱田さんのお話は、私たち自身がそこで体験しているかのような感覚にさせられました。



そして、濱田さんからは、被害が今も続く事実を認識すること、平和について学ぶこと、実際に広島を訪れて今と未来について考えることが大切であるといったメッセージをいただきました。今回の学習を生かし、修学旅行での広島訪問をより意義のあるものにしていこうと思います。

